

我ら 50 期 ここにあり

3 年生の 1 学期もあと 10 日



6 月から始まった 3 年生の 1 学期もあと 10 日になりました。そのうち進路懇談で 45 分×4 時間が 5 日間あり、給食は頂いて帰りますが授業は残り少しとなります。3 年生の 1 学期の締めくくりは、本来ならば始まっている夏休みのつもりで、昼からの時間は夏休みの課題に打ち込んでください。中 3 の夏は誰が何と言っても「部活動」と「1・2 年生の復習」の両立に全てをかけてください。塾の夏期講習や習い事もラストスパートで忙しいですが、ここからの 1 ヶ月で人生が決まると言っても過言ではないと思って、本気の全力で「部活動」と「1・2 年生の復習」の両立に挑んでください。

Respect others ～リスペクト アザース～



日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味だけど、「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というその時の行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしている。ある野球チームは、選考会がなく上手い選手と上手くない選手が混合して試合に挑んでいた。上手くない選手がフライをポロリと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは「リスペクト アザース」と言った。やる気がなくてエラーをするのはもっての外であるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。私たちの生活の中で姿や行動、性格などすべてが自分と同じ人間は存在しません。一人ひとりが「持ち味」を持って生活をしています。そしてお互いの「持ち味」をよく知り、互いに認めあっていくことが大事になってくると思います。違いを認めて他者を尊重しようという気持ちがあれば、誰とでも公平に接していくことができるようになるのではないのでしょうか。

目をなくしたカバ



1 頭のカバが川を渡っているときに自分の片方の目をなくした。カバは必死になって目を探した。前を見たり、後ろを見たり、右側を見たり、左側を見たり、体の下を見たりしたが、目は見つからない。川岸にいる鳥や動物たちは「少し休んだほうがいい」と助言した。しかし、永遠に目を失ってしまうのではないかと恐れたカバは、休むことなく、一心不乱に目を探し続けた。それでも、やはり目は見つからず、とうとうカバは疲れはてて、その場に座りこんでしまった。カバが動きまわるのをやめると、川は静寂をとり戻した。すると、カバがかき回して濁らせていた水は、泥が沈み、底まで透きとおって見えるようになった。こうして、カバはなくしてしまった自分の目を見つけることができた。



目をなくしたカバの教訓 ～止まることは正しいこと～

コップの中の泥水をしばらく放置しておくと、やがては泥が沈み、水と泥に分かれる。この現象はしばしば座禅にたとえられる。座禅の禅とは何か？もともとはインドの「ジャーナ」という古い言葉からきているという。「ジャーナ」とは心を静かに保つということだ。茶色の泥水の状態は忙しさの中でもがいている日常である。心を静かに保つことで、心の中の舞い上がった泥を沈めてみよう。座禅を組むところまではいかなくても、私たちは毎日の生活の中に「心を静かに保つ時間」、つまり「ぼんやりする時間」をいくつも見つけることができる。ところが、今や私たちはスマートフォンをいじって、そういう時間をつぶしている。何も考えずにぼんやりしているときにこそ、ひらめきが降りてくるという話はよく聞く。机に座って髪の毛をかきむしっているとき、パソコンに向かって身もだえするとき、ひらめきは降りてきてくれない。ひらめきという訪問者は、忙しい人を嫌い、ぼんやりしている人を好む。禅語の中に「七走一坐」と「一日一止」という言葉がある。「七走一坐」とは、七回走ったら一度は坐れという意味だ。ずっと走り続けていないと仲間から後れをとってしまう——ついつい私たちはそんなふうに考えてしまう。しかし、長い目で見れば、ずっと走り続けることは良いことではない。しばらく走ったら休息をとり、自分の走りを見直すのが賢明である。